『らんまん』 No.6

桜の葉も、赤や黄色に色づき始め、秋の深まりを感じられるようになってきました。運動会を終えた子どもたちもひと段落、友達や先生と一緒にしたい遊びやいろいろな秋を見つけながら、遊びの中で友達とのかかわりや季節の移り変わりを楽しんでいます。次は村民体育祭や交流音楽会、秋のごっこ遊び、わくわくフェスティバルへ向け、みんなで様々な表現や活動の面白さを味わっていきたいと思います。

青空運動会では４年ぶりに人数制限がなくなったことで、異年齢、親子、みらいっこなどの競技が実施でき、「楽しかった」「嬉しかった」というお礼の言葉をたくさんいただきました。皆様のご協力、なんといっても温かいご声援に感謝いたします。たんぽぽ組・ちゅうりっぷ組は走ったり踊ったりすることを楽しんで、自分らしく生き生きと表現していたのが印象的でした。ちょっと頼もしくなりましたね。すみれ組はこれまで頑張ってきた一つ一つの競技に一生懸命に取り組む姿に感動しました。体の力もぐんと伸びましたね。

子どもが「やってみたい」「楽しい」「もっとやりたい」と思い、自発的な遊びとしてする中に、多様な体の動き（身体諸機能の発達）、自分の頭で考える力（主体的で深い学び）、他者と協働して学ぶ力（対話的で深い学び）が実現されていくと思います。「運動会」というめあてをもってみんなで取り組むことは、子どもたちの成長にとって大きなものであると改めて感じました。

また、保護者の皆様には、和太鼓のお手伝いや終了後の片付けなどにご協力いただいましたこと改めてお礼申し上げます。

秋といえば！スポーツの秋！外遊び・運動遊びの大切さ

以前、文部科学省の調査で、外遊びの時間が長い幼児ほど運動能力が高い傾向にあるとの結果が出ていました。幼児期は、６歳までに大人の８割程度までの神経機能が発達すると言われており、タイミングよく動いたり、力の加減をコントロールしたりする運動を調整する能力が顕著に向上する時期です。幼児期に運動習慣を身に付けると・・・・・・そんなお話を含め、１月のＰＴＡ人権教育講演会では帝塚山大学の岡澤先生の講演を予定しています。

秋といえば！読書の秋！　絵本の読み聞かせで育つ５つの効果

１子どもの心が安定する
２想像力が育まれる
３言語能力が高まる
４感情が豊かになる
５集中力が上がる

子どもはお気に入りの絵本があると、飽きることなく見入っています。絵本を通して、いろいろな世界に入り込み、それらが心の中で動き始めると、耳で聞く言葉が感覚を刺激して豊かな言葉の表現が育まれます。また、子どもが一人で読書をする前段階として、親や先生が声を出して「読み聞かせ」をすることの意味は実に大きいといえます。黙読とは違って、何よりそこで交わされる言葉には“体温”があり「自分のことを信じてくれている」「思ってくれている」という安心感こそが子どもの成長の基盤になると思うのです。絵本に親しみ、絵本から広がる世界を楽しめる機会のひとつになることをそして、絵本好きが小学校以降の読書の習慣につながればいいですね。

文責　西川朋子